



瀬戸内海クルーズ推進会議（第5回全体会議）

今年度の活動報告及び今後の予定

令和2年12月21日

瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局



本日の議題

- 1.瀬戸内海クルーズ推進会議の今年度の活動報告
- 2.今後の進め方（案）について
- 3.参考資料



1.瀬戸内海クルーズ推進会議の今年度の活動報告

瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と体制(令和元年5月31日合同会議資料)

設立の目的（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第2条）

○我が国におけるクルーズが進展しつつある中、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海^(※)となることを目指し、また、その取組みを通じて当該海域・地域の振興を図るとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目的に設立。

※「明日の日本を支える観光ビジョン—世界が訪れたくなる日本へ（平成28年3月20日）」での施策集において“日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディスティネーションに～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～”との言及もあり。

推進会議の体制（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第11条、12条、13条）

○瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体、民間団体、国の機関から構成される『全体会議』及び近畿・中国・四国・九州の各エリアに關係する構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表:苅田中国経済連合会会長(中国電力会長)、副代表:千葉四国経済連合会会長(四国電力会長)

■ 合同会議(全体会議+エリア会議)
第1回(令和元年5月31日)

全体会議

総括事務局:中国地方整備局(港湾空港部)

事務局:近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局(各港湾空港部)

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

【開催日】

- 第1回(平成30年12月13日)
第2回(令和元年5月23日)
第3回(令和元年11月12日)
第4回(令和2年7月14日)書面

情報共有 提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

中国エリア会議

四国エリア会議

九州エリア会議

事務局:近畿地方整備局
(港湾空港部)

事務局:中国地方整備局
(港湾空港部)

事務局:四国地方整備局
(港湾空港部)

事務局:九州地方整備局
(港湾空港部)

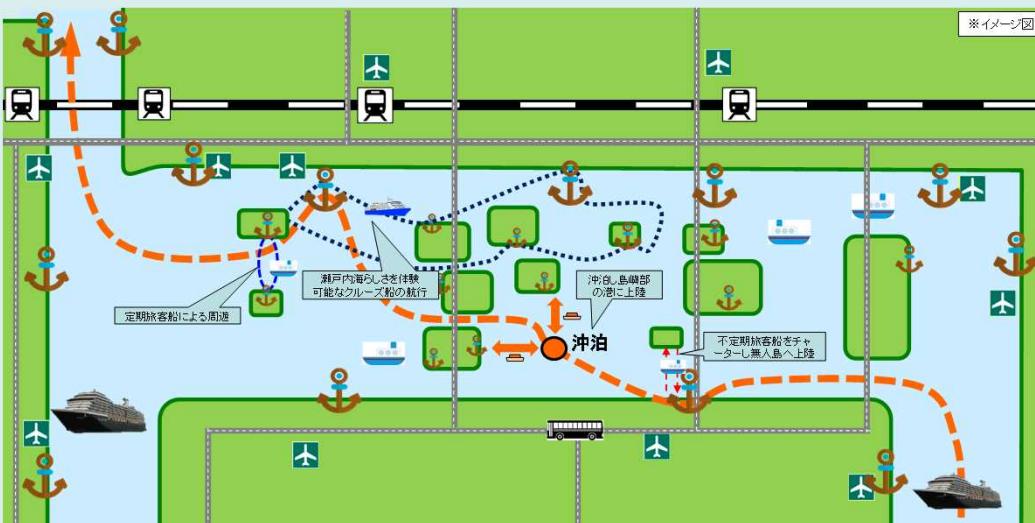
瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取組

第1回 瀬戸内海クルーズ推進会議（平成30年12月13日）

●瀬戸内海クルーズの推進について

- ・瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と運営体制について
- ・瀬戸内海について
- ・瀬戸内海クルーズについて
- ・瀬戸内海クルーズの現状について
- ・瀬戸内海クルーズを推進する上で課題と課題解決に向けた必要な取組の立案

瀬戸内海クルーズの目指すクルーズイメージ



瀬戸内海クルーズ推進会議の取組

課題	瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組(案)
港湾管理者による外国船社の受入準備(ソフト面・ハード面・人材)が十分に出来ていない。	【取組1】 港湾での受入環境改善
港から観光地へのアクセスも含めたソフトが十分でない。	【取組2】 港から観光地へのアクセス性向上
外国船社に対して瀬戸内海の港湾情報、受入体制の情報が発信出来ていない。	【取組3】 瀬戸内海クルーズとしての情報発信
港湾管理者と外国船社とのつながりが十分でない。	【取組4】 船社への誘致活動
航行や入出港に関する複数のルールが存在するも、外国船社に十分に理解されていない。	【取組5】 クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実

第2回 瀬戸内海クルーズ推進会議（令和元年5月23日）

●瀬戸内海クルーズ推進会議の取組報告について

- ・エリア会議の開催状況、具体的な取組み状況の報告
- ・港湾施設・誘致受入・観光に関する基礎調査の実施
- ・瀬戸内海クルーズ情報プラットフォームの構築
- ・シートレード参加をはじめとする船社への誘致活動
- ・船社ヒアリングによる航行・寄港に関するサポート体制の充実
- 瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの基本方針の立案
- ・目指すべき将来像、基本政策を提案

瀬戸内海クルーズ推進会議における具体的な取組み

瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組み	具体的な取組み
【取組1】 港湾での受入環境改善	各港の課題整理に向けた基礎調査の実施と課題の整理 ■ 各港における「港湾での受入環境」「港から観光地へのアクセス性」に関する課題整理に向けた基礎調査を実施し、課題を整理 『クルーズ船誘致アクションプラン』策定 ■ 課題の整理結果を基に、各港象徴港ごとに『クルーズ推進アクションプラン』を関係機関が策定 ■ 同アクションプランに基づき、「港湾での受入環境改善」「港から観光地へのアクセス性向上」を図る
【取組2】 港から観光地へのアクセス性向上	情報プラットフォームの構築 ■ 外航船社等を対象に、寄港地の港湾施設情報や観光地情報を発信する「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」のプロトタイプを構築し、瀬戸内海クルーズとしての情報発信を開始し、以後、改善と情報の充実を図り、本格運用
【取組3】 瀬戸内海クルーズとしての情報発信	ワンストップ窓口体制の構築 ■ クルーズ船社からの各種問い合わせに対し、窓口を一本化して情報提供することを目的として、「瀬戸内海Consultation Service(相談窓口)」を開設する。問い合わせ窓口の一元化を通じ、瀬戸内海クルーズの活性化を図る シートレードグローバル等への参加 ■ 2019年4月に米国フロリダ州で開催される世界最大級のクルーズ見本市である『シートレードグローバル2019』に参加し、「瀬戸内海クルーズ」を対外発信することでクルーズ船誘致に寄与する
【取組4】 船社への誘致活動	船社等へのヒアリング ■ 船社等へのヒアリングを通じて、サポート体制の検討を行うとともに、サポート体制の構築及び充実を図る ■ 定期的に船社ヒアリングを実施し、ヒアリング結果の「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」への反映をはじめ、各取組のプラッシュアップに活用
【取組5】 クルーズ船の航行・寄港に関するサポート体制の充実	

瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの基本方針

【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上

(基本政策Ⅰ) 港湾での受入環境の充実・強化

- 具体的な取組①：クルーズ船受入環境の充実・強化
- 具体的な取組②：おもてなし体制の充実・強化
- 具体的な取組③：広域連携による戦略的な誘致活動の実施

(基本政策Ⅱ) 観光地へのアクセス性の向上

- 具体的な取組①：観光地情報（多言語情報）の充実・強化
- 具体的な取組②：観光地へのアクセス強化

(基本政策Ⅲ) 観光地の魅力創出の強化

- 具体的な取組①：魅力的観光コースの造成
- 具体的な取組②：新たに取組による既存観光地の需要增大

地域資源によるクルーズの活性化
観光消費額の増加
地元の観光客の増加

瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取組

第3回 瀬戸内海クルーズ推進会議（令和元年11月12日）

●具体的な取組について目標設定を実施（取組内容・時期）

- 各港の目標（ターゲットや取組内容）
- 各港の強み（港湾施設・観光資源・おもてなし体制など）
- 各港の目標・取組をカテゴリー別に分類
- 各港行動計画（アクションプラン）の立案
- 瀬戸内海クルーズ全体の目標（アクションプラン）の立案

●瀬戸内海クルーズ推進会議による誘致活動

- 瀬戸内海クルーズ推進会議でのクルーズ誘致チーム結成
- クルーズ誘致チームによる船社へのセールス活動の実施
- 誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施
※各港の強み・連携を船社にアピール
- 船社からの意見、意向を確認、瀬戸内海クルーズを検討

●瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの提案

- 誘致活動の結果を踏まえ、単独港での取組、各港の強みの連携による瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの提案

瀬戸内海クルーズ推進アクションプラン提案

広域連携による戦略的な誘致活動の実施

○クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。

※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社を招聘。

※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

魅力的なクルーズプランの提案

○瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。

※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを作成。今後の誘致活動、シートレーダーなどで船社側に提案。

戦略的な情報発信

○船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。

※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。

○瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。

○瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードグローバル（マイアミ）への参加。

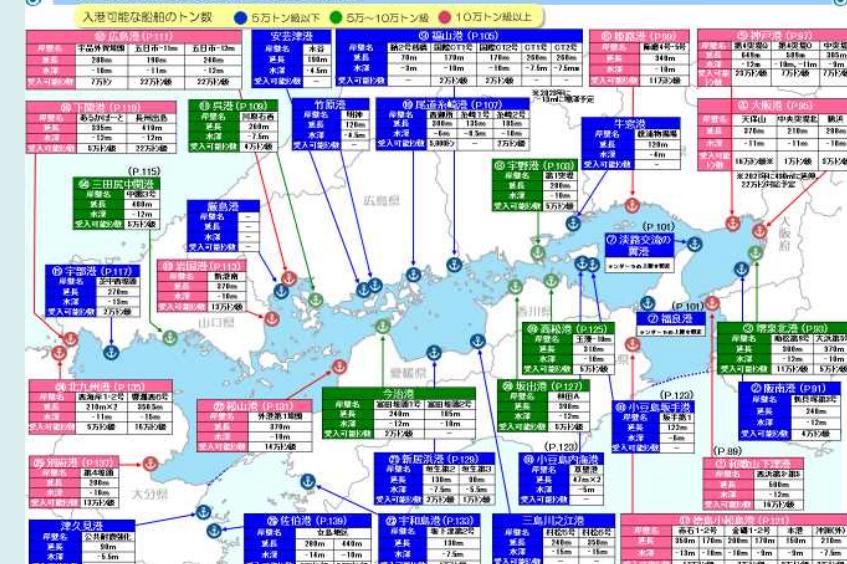
※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上
(瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて)

各港のアクションプラン立案

③ ② 瀬戸内海のクルーズ船受入岸壁



クルーズ船社への誘致活動に用いる「瀬戸内海クルーズガイド」作成

各港のアクションプラン（「港別」の具体的な取組）

- 岸壁諸元
- 誘致目標（隻数、ターゲットとする客船）
- 背後観光コンテンツ
- 目標達成のための課題・解決策

など

瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの策定

【策定の目的】

瀬戸内海を囲む近畿・中国・四国・九州の関連自治体がこれまで以上に連携し、「広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上」を目指し、その取組を通じ「瀬戸内海全体でのクルーズの活性化」、「おもてなし等による地域のつながりの創出」、「地域観光消費の増加」を図ることを目的に策定。

【アクションプランの内容】

- 今後の行動計画

クルーズ船社への誘致活動に用いる「瀬戸内海クルーズガイド」を作成

瀬戸内海クルーズガイド及びPR動画の作成

- 各港ガイドの作成
 - 岸壁諸元
 - 観光コンテンツ
 - 四季の見所・イベント一覧などを掲載
- 瀬戸内海の“おすすめクルーズプラン”的提案
※各港ガイドから作成した瀬戸内海の港を結んだプランとして作成。
などを掲載。



瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取組

第4回 瀬戸内海クルーズ推進会議（令和2年7月14日） ※書面報告

- 瀬戸内海クルーズガイドブック及び瀬戸内海PR動画完成報告
 - ・瀬戸内海クルーズガイドブックの概要を報告（A5版・全143ページ、日英）
 - 瀬戸内海クルーズプラン
(①春の旅 ②夏の旅 ③秋の旅 ④冬の旅)
 - 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ
(①世界遺産 ②国宝建造物 ③国宝美術品 ④観光名所 ⑤ローカルグルメ
⑥観光体験 ⑦問い合わせ先)
 - 瀬戸内海に関する情報
(①瀬戸内海の航行規制 ②瀬戸内海のクルーズ船受入岸壁
③瀬戸内海の主な港湾)
 - ・瀬戸内海PR動画の概要を報告（フル動画・8分44秒、日英）
 - 季節ごとの動画
(春3分04秒 夏3分04秒 秋&冬3分04秒)
- ガイドブック及びPR動画の活用方針
 - ・ガイドブックの配布実績・予定、PR動画のWEB展開の概要を報告

瀬戸内海クルーズガイドブック



瀬戸内海PR動画



ガイドブック及びPR動画の活用方針

瀬戸内海クルーズガイドブック 配布方針

◆令和2年7月配布

- 瀬戸内海クルーズ推進会議 構成メンバー
- 国土交通省 港湾局 産業港湾課 クルーズ振興室
- 掲載写真等のご協力先事業者等
- 船社（邦船社3社 郵船クルーズ、商船三井客船、日本クルーズ客船）
→飛鳥II、にっぽん丸、ぱしふいいくびいなす



◆令和2年10月以降配布

- 外国船社への誘致活動
- せとうちクルーズセミナー（全国自治体・旅行代理店）
- 各種クルーズシンポジウム（外国・邦船社、旅行会社、旅行代理店、船舶代理店等）
- 海事プレス社
- JNTO
- シートレードグローバル2021（令和3年4月～5月）



瀬戸内海PR動画 展開方針

- 上記、ガイドブックにあわせて、インターネットを介し展開する。
(瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会のHP等)
※個別にDVDやUSBの配布は行わない。

<https://www.youtube.com/watch?v=IWOS8tUzjvU&t=288s>



クルーズ船社を招聘しての誘致活動

瀬戸内海の更なる振興を目指し、令和2年10月29日（木）～30日（金）の2日間で、令和2年9月2日より運航が開始された瀬戸内海汽船（株）の観光型高速クルーザー「SEA SPICA（シースピカ）」による体験乗船及び、クルーズ関係者を広島に招いた誘致活動（パネルディスカッション及び商談会）を開催。※30日（金）の誘致活動（商談会）には、近畿、四国、中国、九州地区より瀬戸内海沿岸の18自治体が参加。

開催概要

【SEA SPICA体験乗船】令和2年10月29日(木) 08:30～17:50 広島港～呉港～下蒲刈島～大崎下島（御手洗港）～大久野島～生口島（瀬戸田港）～広島港

【第4弾誘致活動】令和2年10月30日(金) 10:30～17:00 TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅前 会議室

①パネルディスカッション：「招聘3者のプレゼンテーション」、「現地視察の感想（体験乗船）」、「瀬戸内海エリアの寄港地観光に関する期待、要望」

②誘致活動（商談会）：「招聘3者へ各自治体（18自治体）からのプレゼンテーション」、「クルーズ誘致に向けた打ち合わせ」



【クリスタルクルーズ 日本地区セールスマネージャー 小金 潤（こがねじゅん）氏】

- 地域特有のストーリーを紹介できる観光要素を紹介してほしい。例えば日本には寺院等が多くあるが、何が違うかわからない。ストーリー自体が地域のアピールポイントとなる。
- 季節物の観光要素はタイミングがシビアであるため、通年で楽しめる観光要素をアピールしてほしい。

【日本クルーズ客船 営業部企画課担当副長 瀧尾 昌徳（たけおまさのり）氏】

- 有名な観光要素であれば、乗船客もすでに知っていることが多いため、ツアーに組み込むことは少ない。地元でしか体験できない観光要素を求めている。
- 地元にとっては当たり前のものが、観光客にとっては珍しいものに映ることもある。客観視して、既存のものを見直すことが必要である。

【クルーズバケーション 代表取締役社長 木島 榮子（きじまえいこ）氏】

- 乗船客へ観光地の印象を残すためには、地域住民と触れ合う機会が重要である。そのため、地域住民によるガイドの育成等も必要となると考える。
- 海外のクルーズ船が日本に来るタイミングは、季節の変わり目（春：3～5月、秋：9～11月）が多いため、このタイミングで楽しめる観光要素があることが重要である。





2. 今後の予定について

瀬戸内海クルーズ推進会議の今後の方針・進め方

広域連携による戦略的な誘致活動の実施【継続】

- クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。

※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社)を招聘。

※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施(併せて希望する社に対して現地視察を実施)。

◆観光コンテンツとクルーズ船社のニーズをマッチングしたクルーズプランを作成し、船社等へPR。

※瀬戸内海の観光コンテンツを寄港地連携も考慮してクルーズプランとしてまとめ、実際に船社などを招聘して誘致活動・現地視察(FAMツアーア)を実施するとともに、船社などからの意見を把握しクルーズプランにフィードバック。

魅力的なクルーズプランの提案【継続・一部提案】

- 瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。

※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。

◆瀬戸内海における大規模交流イベント開催に向けたクルーズ企画の検討と検証。

※クルーズ船社などの意向を踏まえ、[大阪万博](#)、[瀬戸内国際芸術祭](#)の開催に関連したクルーズ企画についての検討・検証。

戦略的な情報発信【継続】

- 船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。

※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。

- 瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。

- 瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードグローバル(マイアミ)への参加。

※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

◆「瀬戸内海クルーズガイド」及び、「瀬戸内クルーズHP」更新に向けて、観光コンテンツの最新情報等を収集。

※ブラッシュアップ(各港施設・観光情報等)に向けて、各自治体からの最新情報、意見等を収集。

瀬戸内海で開催される国際的な祭典・イベント

瀬戸内国際芸術祭

●概要

- ・テーマ:「海の復権」
- ・コンセプト:
 - ①瀬戸内海の里海・里山の隠れた資源の発掘と発信
 - ②国内・世界とのつながりの継続、より質の高い交流への転換
 - ③瀬戸内海の農水産物を活用した「食」の充実・強化
 - ④持続可能な社会の実現に向けた取り組みの推進
- ・開催期間:2022年の春、夏、秋の約3か月間(合計105日間)
- ・開催場所:直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、粟島、伊吹島、高松港・宇野港周辺
- ・入場者想定規模:約117万人(2019年開催実績)



大阪・関西万国博覧会

●概要

- ・テーマ:「いのち輝く未来社会のデザイン」
- ・コンセプト:未来社会の実験場
- ・開催期間:2025年の春から秋の約半年間(180日間程度)
 - 2025年5月 3日(土)～11月 3日(月) *当初想定
 - 2025年4月13日(日)～10月13日(月) *前倒し(情報あり)
- ・開催場所:夢洲(人口等)約155ha
- ・入場者想定規模:約2,800万人
- ・全国への経済波及効果:1.9兆円



瀬戸内海クルーズ推進会議の今後の検討内容のポイント【提案】

魅力的なクルーズプランの提案【継続・一部提案】

○瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。

※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレーダなどで船社側に提案。

◆瀬戸内海における大規模交流イベント開催に向けたクルーズ企画の検討。

※クルーズ船社などの意向を踏まえ、[大阪万博](#)、[瀬戸内国際芸術祭](#)の開催に関連したクルーズ企画の検討・検証。

瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて、
広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上を目指す

瀬戸内国際芸術祭

●2016年の瀬戸内国際芸術祭の会期中には、商船三井客船(にっぽん丸)が宇野港、高松港に寄港(沖泊含む)し、海上でテンダーボート等を活用して、芸術祭の会場を巡る寄港地観光を実施。直島をはじめとして、欧米人の来訪も多かったことより、2022年春以降に開催予定の瀬戸内国際芸術祭に向けて、欧米クルーズ船社の小型ラグジュアリーシップによるクルーズ企画の検討・検証を行っていく。

大阪・関西万博博覧会

●大阪・関西万博博覧会会場の立地特性として、瀬戸内海というキーワードが謳われると同時に、万博会場のイメージ図には会場周辺に錨泊しているとみられるクルーズ船が描かれる等、万博期間中のクルーズ船の活用が示唆されている。また、国内外から約2,800万人の入場者の集客が見込まれるなど、大阪湾を起終点とした観光商品の造成も想定されることより、2025年春以降の開催期間に合わせた、瀬戸内海を周遊するクルーズ企画の検討・検証を行っていく。

魅力的な瀬戸内海クルーズプランの検討イメージ【提案】

瀬戸内海での「国際的なイベント」、「四季の観光コンテンツ」を考慮してクルーズプランとしてまとめた。今後、寄港地ツアーを企画する旅行代理店（ランドオペレーター）等への提案を実施し、クルーズプランにフィードバックする。

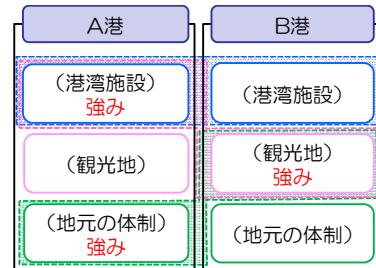
瀬戸内国際芸術祭と連携したプラン



大阪・関西万博と連携したプラン



クルーズプランの立案と検証イメージ



各港の強みの連携による
瀬戸内海クルーズ誘致の拡大

立案

魅力あるクルーズプラン立案



検証

旅行代理店等へのクルーズプラン
提案とFAMツアーやによる船社等へ
の誘致活動の実施

フィードバック

新たな魅力あるクルーズプランの提案



3. 參考資料



【参考】クルーズ船社からの主な意見①



実施日	招聘者	参加自治体	主な意見
2020年 10月30日 (金)	クリスタルクルーズ 日本地区セールスマネージャー 小金潤（こがねじゅん）氏	<ul style="list-style-type: none"> ●近畿エリア <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府 ・兵庫県 ・和歌山県 ●中国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・笠岡市 ・広島県 ・広島市 ・福山市 ・三原市 ・呉市 ・岩国市 ●四国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県 ・松山市 ・宇和島市 ・徳島県 ・香川県 ●九州エリア <ul style="list-style-type: none"> ・下関市 ・北九州市 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツアーについて <ul style="list-style-type: none"> ・観光コンテンツまでの<u>移動時間は1時間程度</u>にしたい。お客様が座っていられる時間はその程度である。 ・ランチはローカルなものが良い。温かい料理が好まれる。 ・小型船のクリスタルエンデバーは機動性に優れるため、島巡りも可能である。また、当該地で団体の予約をする際にも、少人数のため予約確保しやすい。 ・この時期（コロナ）のツアーに関しては、クリスタルクルーズの企画内容のみとしている。 ●船舶について <ul style="list-style-type: none"> ・大型船クリスタルシンフォニーは、<u>7~21日のツアー</u>であり、季節は春である。また<u>70%がリピーター</u>である。 ・クリスタルシンフォニーは、CLIA（クルーズライン国際協会）やCDC（アメリカ疾病予防管理センター）のアドバイスを受けた結果、今のところ2021年3月26日が初出航の予定であるが、コロナの影響で変わる可能性もある。 ・小型船クリスタルエンデバーは、14日間の日本一周クルーズであり、季節は夏である。冬は南極などに配船される予定。また高所得者が多い。 ・クリスタルエンデバーは、ゾディアック等での入港も可能であり、港を選ばないため、<u>大概の港に寄港</u>できる。またクリスタルシンフォニーと比べると、10歳程度客層が若い。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・誘致活動の際の<u>PR動画は、長くても3分以内</u>に収めてもらえないともてもらえないと考える。 ・外国人は、<u>アンティークなものが好きである。またカフェでのんびりするといった行動にも需要</u>はあると考える。 ・前の寄港地でパンフレットを船に乗せて、移動中の船の中で検討してもらうことも効果的であると考える。



【参考】クルーズ船社からの主な意見②



実施日	招聘者	参加自治体	主な意見
2020年 10月30日 (金)	クルーズバケーション 代表取締役社長 木島栄子（きじまえいこ）氏	<ul style="list-style-type: none"> ●近畿エリア <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府 ・兵庫県 ・和歌山県 ●中国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・笠岡市 ・広島県 ・広島市 ・福山市 ・三原市 ・呉市 ・岩国市 ●四国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県 ・松山市 ・宇和島市 ・徳島県 ・香川県 ●九州エリア <ul style="list-style-type: none"> ・下関市 ・北九州市 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツアーリについて <ul style="list-style-type: none"> ・カジュアル船のお客とはニーズも違い、<u>歴史の勉強ができるようなアカデミックなものを求めて</u>いる。 ・季節限定ではなく、<u>春夏秋冬の通年で楽しめるような観光コンテンツを提案</u>してほしい。 ・探検船のハンセアティックでは、<u>ゾディアックがあるため、例えば陸上で行くには遠いがビーチなどがある観光地であれば、上陸も可能であるため、そういう観光地を紹介してほしい。</u> ・<u>町の活性化を考えると、地元の観光ガイドやボランティアといった人を使うべき</u>である。地元の声が聞こえないと寂しい。 ・地元の熱心なガイドが、過去の出来事など経験を説明してくれることで印象に残ると思う。<u>自治体としてもそういう地元に熱心な観光ガイド等の人材を育成</u>していく必要があると考える。 ●船舶について <ul style="list-style-type: none"> ・オイローパは夏の期間欧州で就航しているため、<u>日本に来る場合は季節の変わり目である春と秋である。</u> ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・もし誘致活動で招聘事業を行うのであれば、<u>海外船社の本社を呼んで案内することが効果的</u>である。 ・<u>錨泊について漁協との調整を行った上で提案</u>をお願いしたい。



【参考】クルーズ船社からの主な意見③



実施日	招聘者	参加自治体	主な意見
2020年 10月30日 (金)	日本クルーズ客船 営業部企画課 担当副長 嶽尾昌徳（たけおまさのり）氏	<ul style="list-style-type: none"> ●近畿エリア <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府 ・兵庫県 ・和歌山県 ●中国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・笠岡市 ・広島県 ・広島市 ・福山市 ・三原市 ・呉市 ・岩国市 ●四国エリア <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県 ・松山市 ・宇和島市 ・徳島県 ・香川県 ●九州エリア <ul style="list-style-type: none"> ・下関市 ・北九州市 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツアーライブについて <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地元のお客さんとどこまで触れ合えるのかが重要</u>である。ガイドブック等に掲載されている情報よりも、<u>地元の人の声の方が影響力は大きい</u>。 ・1寄港で最大300人が下船するため、どれだけいいコンテンツでもその対応ができなければ難しいと考える。お客様を上手く捌けるがどうかが重要になる。 ・<u>観光地のストーリーを説明できる人がいるかどうかが重要</u>。観光コンテンツでどこまで特別感を出せるかが全てのため、その点に留意してほしい。特に日本でここでしか体験できないということがあればなお良い。 ●コロナ対策について <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを踏まえ、コロナ陽性者（重症・軽症）をどこで下船させるかについて議論になっている。そのため、<u>今後各寄港地においてはどの程度医療体制が整っているか</u>ということも判断基準になることが想定される。また県や市によって、保健部局のコロナ対策の対応部署の体制が違う（医者自体も対応者によって意見が違う）ため、全ての港で同一の対応が取れるとは限らないと考えていることから、各自治体と密に連携を取りたい。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>歓送迎イベント</u>について、例えば船首、中央、船尾の3か所で種類の違うイベントを実施することで、<u>お客様を分散できるのであれば可能性</u>はあると思う。ただ、報道記事の写真等でぱっと見て密に見えるようであれば、風評被害を避けるために何もしない方がいいと考えている。 ・イベントを実施したことにより、密であると見られたくないため、できるだけやらない方がいいと思っている。ただ観光案内所については、個人行動の方もいるため実施すべきだと思う。

【参考】新型コロナウイルスに関するセミナー等の参加状況報告

国内港湾連携事業 クルーズシンポジウム in 東京

【日時・場所】令和2年10月23日(金) @東京国際クルーズターミナル

【開催内容】①連携自治体プレゼンテーション：東京都、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県

②東京港発着クルーズモデルコースの紹介

③パネルディスカッション：ウィズコロナ時代の港湾連携と安全安心なクルーズ客船受入

(連携5港、シルバーシークルーズ糸川氏、ゲンティンクルーズライン山本氏)



【主な発言内容】

- 船内の感染症対策は出来る限りのことをやっていて、乗員乗客全員がPCR検査を受けているという点でも、船の上が一番安全ということになるのではないか。また日本での運航再開で大事なのは、クルーズに対するマイナスのイメージをどうやってプラスに変えていくか。ここについては船社や港などの協力体制が重要である。(ゲンティンクルーズ 山本氏)
- 今まででは船社側に各港の観光資源の魅力などを重点的にPRしてきたと思うが、これからは安心・安全のための対策についてしっかりと伝えていくことが重要になってくるだろう。市民に向けても、船社と港が連携し、クルーズがいかに安全かということをPRする必要がある。(シルバーシークルーズ 糸川氏)

2020 クルーズポート・セミナー

【日時・場所】令和2年11月11日(水) @一般財団法人みなと総合研究財団

【開催内容】①クルーズ船運航の基本：元郵船クルーズ「飛鳥」船長 幡野氏、みなと総合研究財団 沖田氏

②邦船クルーズの運航再開：商船三井客船 富岡氏、横浜市 萩原氏、静岡県 吉村氏

③運航再開した諸外国の現状：シルバーシークルーズ 糸川氏、ゲンティンクルーズライン山本氏

【主な発言内容】

- 外国籍クルーズの場合は特に責任体制複雑であることから、国内関係者も含め関係者全体の情報共有と役割分担及び責任範囲の明確化が必要で有り、その対応を統括するような組織が必要になる。(元郵船クルーズ 伴野氏)
- 今後船内においてもペーパーレス化が進むことが想定される。避難訓練等もスマートフォン等を活用するような取り組みを各船社で進めている。また外国船の日本発着再開に向けて、外国船社が一丸となり、統一された連絡体制・責任範囲のリスト作成を進めている。(シルバーシークルーズ 糸川氏)



新型コロナウイルス感染症拡大の影響(クルーズ船寄港回数の減少)

- 近畿・中国・四国・九州地整管内の2020年のクルーズ船の寄港実績(予定含む)は、各クルーズ船社の新型コロナウイルス感染拡大防止のための運航中止により、12月1日現在で1,790回減少(年間合計2,039回→261回(12月分は寄港予定))の見込みであり、特に新型コロナウイルス感染が拡大した3月以降の寄港実績が大幅に減少している。

月別寄港計画・実績		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計	合計
当初計画	外航	44	59	87	130	174	157	174	181	180	154	130	118	1588	2039
	内航 うちガントウ	25 14	17 13	69 36	37 21	35 16	39 19	52 22	34 21	28 18	56 19	45 17	14 0	451 216	
実績	外航	33	11	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	51	249
	内航 うちガントウ	22 11	19 16	2 2	0 0	0 0	0 0	20 20	17 17	15 15	33 29	42 26	28 9	198 145	

凡例

減少なし

小幅減少

大幅減少

